

保 健 部 会

研究主題

養護教諭の専門性を生かした学校保健活動の充実を目指して
～小・中連携を生かした、健康課題解決への取り組み～

1 主題について

昨年度から、学区内の小・中学校が連携して地域の子どもたちの健康課題から研究テーマを設定し、課題解決に向けて共通のねらいに絞って研究を進めてきた。今年度は、健康課題解決の具体的な方策に付いて検討し、実践に結びつけながら、子どもたちの健やかな成長を目指して取り組むこととした。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	7月～11月	保健部会（各班ごと） 研究内容の確認とまとめ方
6月29日	保健部会（全体） 今年度の研究内容とまとめ方	11月10日	第2回総合研究会 各班の研究発表

3 研究内容

(1) 「小・中連携した歯と口の健康づくり」：一中学区

①取組内容

- ・一中学区共通の目標「夜は3分みがく」を設定し、一斉歯みがき強調週間を実施した。
- ・「歯みがき指導用ポスター」「歯みがきタイム音楽のCD」を作成し、指導に活用した。
- ・カラーテスターによる染め出し後に、保護者が判定する歯みがき検定の実施をした。

②課題：児童生徒への指導と保護者への働きかけを継続的に行っていく必要がある。

(2) 研究テーマ 「朝のあいさつを元気よくできる児童・生徒の育成」：東中学区

①取組内容

- ・昨年度と比較するためライフスタイル調査を実施。学区の健康課題である睡眠・排便・朝食について特集した学区保健だより「すこやか」No1を発行し共通の情報を発信した。
- ・チェックカード元気UP大作戦PARTⅡを活用し、「朝から元気UP！」を図る。

②課題：元気UP大作戦PARTⅡ終了後、カードの活用も学区で統一し、連携を深めたい。

(3) 研究テーマ 「成長期に必要な睡眠のとり方について」：二中・矢立中学区

①取組内容

- ・学校保健委員会の共通のテーマとして取り上げ、話し合った内容をお便りに載せ啓発資料とした。昨年度からの変化について、アンケート結果から考察し成果を検証した。
- ・小学校入学前の保護者や中学生を対象としたプレゼンや資料を作成し活用した。

②課題：就寝リズムの定着と良質の睡眠を得るため、保護者への啓発を継続していきたい。

(4) 研究テーマ 「目の健康と生活習慣について」：花岡中・成章中学区

①取組内容

- ・正しい姿勢を意識させるため、ペンダントトップの材質や大きさ、紐の長さ等に配慮した「姿勢キープネックレス」を作成し、10月に各校で活用した。
- ・各校共通の掲示物や保護者向け保健だよりを作成し、小・中学校で情報を共有できた。

②課題：共通の取り組みをしていることを強くアピールし、家庭との連携を図りたい。

(5) 研究テーマ 「健康相談活動の充実を目指して」：比内中・下川沿中学区・国際情報

①取組内容

- ・「観察支援記録」を活用し、各校の事例を検討。中学校の問題事例については、小学校時の情報を提供し、背景（経過・家庭環境）や対応について検討した。
- ・学級担任、保護者、関係機関との連携の在り方や校内組織について情報交換を行った。

②課題：小・中連携の在り方を見直し、問題の解決や未然防止につなげていきたい。

(6) 研究テーマ 「地域の子どもたちの食生活を見直し、

よりよい食習慣の形成を目指した取り組み」：田代中・南中学区

①取組内容

- ・生活習慣実態調査の実施。小学校では「食に関する大型絵本」で、中学校では昼の放送を利用して読み聞かせを行った。
- ・保健集会やPTAで「食育」についての講演会を開催。
- ・健康課題別保健だよりを作成し指導に生かした。



【食に関する大型絵本の紹介】

②課題：地域との連携を進めていくために、合同での学校保健委員会の開催を検討したい。

(7) 指導助言（一中教頭 渡部 鋼喜 先生）

- ・小・中学校が共通の目標を設定することは、保護者や地域に訴える力が大きく効果的である。9年間の発達の段階を考慮し、目標に達成しなくても、少しの変化でも認めてあげることも大事である。むし歯予防は、小・中継続した指導が力となって成果を上げている。
- ・相談活動の記録は大事であり、小学校から引き継がれることで問題を未然に防止できる。
- ・食育は、知育・徳育・体育の基盤である。栄養教諭（学校栄養職員）と連携しながら、食を通して地域の食材や栄養について各教科等と関連付けながら効果的に実践してほしい。
- ・研究を進めると、ねらいからずれてしまうことが多い。ねらいを達成するためには、ねらいからずれない指導をしなければならない。成果を検証することで効果が高められる。
- ・資料や教材などは、すべて新しく作るのではなく、各班の実践や情報を共有し、それを自校の実態に合わせて効果的に活用し質を高めてほしい。ただし、図や写真などの資料を使用するときは、著作権等について注意が必要である。
- ・保健学習は小学校においては、身近な生活における健康・安全に関する内容を、中学校においては、個人生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解させなければならない。保健学習や保健指導は、学んだことをすぐに実践できる。タイムリーな時期に実施することで、子どもたちの実践意欲が高まり、家庭も巻き込むことで指導の成果が上がる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・小・中学校が共通した健康目標を示すことで、指導の効果を上げることができ、保護者の意識も高めることができた。

(2) 課題

- ・9年間の発達の段階を踏まえた指導が必要であり、保護者への啓発も継続的に行っていかなければならない。



【ネックレスを全員で体験】